第6章 今後の取り組みの方向性

今後の取り組みの方向性を以下に示します。

6 - 1 継続的改善のしくみづくり

この基本構想が一過性の取り組みで終わることのないよう、策定後も事業の着実な実施、評価、改善を図っていく必要があります。また、放置自転車問題への対策のように市民の協力が必要なものや継続的な取り組みが求められるものについては、今後の具体的な方向付けを行う必要があります。

そのためには、市民や当事者参画のもとに行政、事業者といった関係者で構成する連携組織を設立するなど継続的改善のしくみをつくる必要があります。

6 - 2 継続的かつ積極的な質の向上

この基本構想に示した整備事業メニューを実施した後も、さらに高い志をもって、継続的かつ積極的に質の向上を図る必要があります。今後、法基準やガイドラインなどが拡充された場合はそれにあわせた対応が求められます。また、高齢者、障害者などの当事者のニーズは多様であり、よりきめ細やかな配慮を行っていくことが望まれます。

そのためには平素からバリアフリーに関する情報収集や当事者意見の把握に努め、より質の高いまちづくりを目指していくことが大切です。

6 - 3 ハートビル法などとの連携によるまちのバリアフリー化の促進

この基本構想は、交通バリアフリー法に基づき主として鉄道駅や駅前広場、道路などを対象として策定していますが、まち全体のバリアフリー化を考えるうえでは建築物のバリアフリー化も重要です。駅前広場や道路などと建築物との間が一体的・連続的に移動できるように配慮するとともに、建物内部のバリアフリー化についても行っていかねばなりません。

そのためには、まずは平成 14 年7月に改正されたハートビル法や兵庫県福祉のまちづくり条例との連携により、今後新築・改修される民間建築物に対する行政指導を着実に行っていく必要があります。また、既存建物については、建物所有者・管理者のバリアフリー化への意識向上に向けた啓発活動を行うことも大切です。

6 - 4 バリアフリー化を図る地域の拡大

この基本構想の内容は、優先的に交通バリアフリー化を図るべき重点整備地区を中心として策定されていますが、最終目標は、本市のまち全体のバリアフリー化にあります。この基本構想で示したまちのバリアフリー化の基本理念と方向性の考え方を、さらに重点整備地区外のまちづくりへ展開していくことも重要です。

例えば、本市と隣接市との境界に位置する JR 宝殿駅については、乗降客数が多く、当事者を含む市民からもバリアフリー化が望まれている駅であり、隣接市とも協力しあって早期にバリアフリー化に向けての方向付けを行う必要があります。山陽電鉄別府駅についても今後検討を行うことが望まれます。なお、JR 土山駅についてはもうすでにバリアフリー化が進められています。

また、本市北部は南部に比べて高齢化が進行しており、このような地域における高齢者、障害者など移動困難者に向けた取り組みの方向性についても、検討を行う必要があります。

そのためには、今後、総合計画や都市計画マスタープランといった上位計画を策定するにあたり、この基本構想の趣旨をふまえていくことが望まれます。